

平成28年度愛知県がんセンター公開講座(第2回)のご案内

「最新の免疫療法」

= 平成28年7月16日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「がん免疫療法の進歩」

がん免疫治療は、BCG、ピシバニール、クレスチンなどの非特異的がん免疫療法、がんワクチンや樹状細胞療法などの特異的免疫療法を経て、新たな時代に入りました。

今、最も期待されている「免疫チェックポイント解除療法」は、がんを攻撃するキラーT細胞にかかっているブレーキを外す治療です。悪性黒色腫、肺がんなどの患者さんの一部に著明な効果があることが報告されています。長期間再発の無い症例もあり、明るい光が差し込んだ感があります。講演では、がん免疫療法の歴史を振り返りつつ、現在から未来への展望を述べたいと思います。

腫瘍免疫学部 部長 葛島 清隆

「悪性黒色腫の治療－粘膜悪性黒色腫を中心に－」

悪性黒色腫は、まれながんであり、その多くは皮膚に発生し、時に眼や粘膜（口腔、鼻腔、消化管など）にも発生します。皮膚原発の場合、紫外線と強く関連していますが、その他の原発については原因がよくわかっておらず、原発部位により臨床的な特徴も異なることが知られています。治療の中心は外科切除、放射線療法、化学療法ですが、最近の免疫治療（特に免疫チェックポイント阻害剤）の進歩により治療成績が著しく改善しつつあります。本講座では最近の免疫治療の話題や原発部位による特徴の違いなどについて紹介したいと思います。

薬物療法部 医長 門脇 重憲

「肺がんの新規免疫療法」

肺がんの治療として、外科療法、放射線療法、化学療法に加え4つ目の柱として免疫療法が登場しました。がん細胞は自分が攻撃されないように体の免疫機能を抑制する働きがありますが、この抑制を解除して体の免疫が働くようにする治療法です。化学療法はがん細胞を直接攻撃しますが、免疫療法は人が本来持つ免疫力が発揮出来るようにする薬です。まだ、詳細な検討が必要ですが今後の発展が期待されています。肺がんに対する新規免疫治療の実際についてわかりやすくお話しします。

呼吸器内科部 部長 樋田 豊明